

2022年4月28日

各 位

会 社 名 セイコーエプソン株式会社
代表者名 代表取締役社長 小川 恭範
(コード番号：6724 東証プライム市場)

2022年3月期通期連結業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

2022年1月28日に公表しました2022年3月期通期連結業績予想と本日公表の実績値との差異につきまして、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2022年3月期通期連結業績予想と実績値との差異 (2021年4月1日～2022年3月31日)

	売上収益	事業利益	営業利益	税引前利益	当期利益	親会社の所有者に帰属する当期利益	基本的1株当たり当期利益
前回公表予想 (A)	百万円 1,130,000	百万円 85,000	百万円 84,000	百万円 83,000	百万円 63,000	百万円 63,000	円 182.07
実績値 (B)	1,128,914	89,637	94,479	97,162	92,302	92,288	266.73
増減額 (B - A)	△1,086	4,637	10,479	14,162	29,302	29,288	—
増減率 (%)	△0.1	5.5	12.5	17.1	46.5	46.5	—
(ご参考) 前期実績 (2021年3月期)	995,940	61,642	47,654	44,933	30,995	30,922	89.38

(注) 事業利益は、売上収益から売上原価、販売費及び一般管理費を控除して算出しております。

2. 差異の理由

売上収益につきましては、オフィス・ホームプリンティング事業を中心に半導体などの電子部品調達難や世界的な物流遅延にともなう供給制約の影響を受けた一方、マニファクチャリングソリューションズ事業やウェアラブル機器事業の売上拡大に加え、為替が業績予想の前提に対し円安基調となったことなどにより、概ね前回公表予想どおりの結果となりました。

事業利益につきましては、上記のとおり供給制約が継続するなか、各事業での販売価格維持や効率的な費用執行および為替の円安効果などにより、前回公表予想から上振れしました。

また、営業利益および税引前利益につきましては、上記の事業利益の上振れに加え、円安にともなう為替差益の計上などにより予想を上回り、当期利益につきましても、繰延税金資産の回収可能性を検討のうえ計上額を見直した結果、同資産の積み増しにより税金費用が従来の前提から減少したため、前回公表予想を大幅に上回りました。

以 上